

# 菊陽人 りさーち



やまだ りゅうせい  
**山田 龍青くん**  
(10歳・宮ノ上)

- 趣味 お絵かき
- 将来の夢 無料で遊べるアミューズメント会社を作ること
- 今一番やりたいこと 最新のアミューズメント器具で遊びたい
- みんなに伝えたいこと 戦争はやめてほしい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。  
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



やぶなか りょうと  
**藪中 遼人くん**  
(7歳・大堀木)

- 趣味 おにごっこ
- 将来の夢 おもちゃ屋さんになること
- 自慢できること 足が速い
- 今一番やりたいこと おいしいご飯を食べたい

# 心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声  
人権  
作文シリーズ  
【No.48】

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

◇印からの文章は先生のコメントです。

## ワークキャンプで 学んだこと

武蔵ヶ丘北小6年 宮山 萌果

私は、8月の6、7日に、一泊二日のワークキャンプで、「サンライズヒル」という介護老人保健施設に行きました。その2日間学んだことがあります。一点目として、人と人の絆はとても大切だということです。サンライズヒルに通っている方々のことを「ゲスト」といいます。そのゲストの方々にインタビューをする「聞き取り調査」というものがありました。私がインタビューをした方は、93歳のおばあさんでした。その方は、私が質問をするたびにいやな顔一つせず、笑顔で答えてくださいました。ゲストの方々は、みんな仲が良く笑顔でした。人と人の絆を大切にされているからこそ、お互いが笑顔でいられるのではないかと思います。私も人と人の絆を大切に、常に私自身が笑顔で、そして、周りの人も笑顔にできる人になりたいです。



▲宮山萌果さん

二点目として、助け合い、支え合うことの素晴らしさです。ゲストの方々はもちろん、そのゲストの方々とスタッフの方々が助け合い、支えあっていました。スタッフがゲストの車をおす時も、いろいろな気を配っていらつしやいます。

私の祖母も、足が不自由で歩幅が小さく、つえをつけて歩いています。私もいつも祖母に支えられ、励まされています。そんな祖母に「ありがとう」という感謝の意味も込めてサンライズヒルで学んだことを活かし、いつも笑顔で支えてあげたいです。

これからも、人の命を大切に、絆、笑顔、助け合い...いろいろなもの、いろいろなことを大切にしていきたいです。

## きくよう文芸

### 菊陽句会報

実の弾け殻のみ残る枯芙蓉	坂本百合子	春立てり狭庭の土もゆるみけり	吉野 早苗
とどのひて畦やはらかく春告げる	田中 郁子	鳥の影いくつ隠して寒椿	井上久美子
薄氷や親子の会話筒抜けて	井 子文	災害の復旧進む冬田かな	宮川ユキエ
初々し青年看護師春の風	財津 早雪	いたはりをこめて賜はるよもぎ餅	日高 妙子
梅の香のほどけし朝の静寂かな	原野レイ子	日向ぼこ増ゆる湯呑と笑ひ声	曾我 育代
阿蘇野焼一山焦がし果てにけり	力 幸子	梅五輪蕾解く日の今日や明日	曾我トモ子
怪我也また感謝に変へて春迎ふ	寺尾千代子	風花や病む人置きて逝かれけり	紫藤 祥子
春の日に抱かれ句碑立つ湖畔かな	高橋 孝子	人の世に三猿の教へ老の春	村上 朋子
母見舞う介護施設の梅も咲く	堀川 妙子	筆始め我が句も並ぶ文化祭	野口 令史
おひなさま孫もとなりで座つてる	福田 貴子	来る年も生きんとするの熱燗を	松橋 強
春風が床屋を出たらついで来る	佐藤 健	やんちゃ子のすたり伸びたる成人式	藤本 純子
節分や百三才の誕生日	佐藤 節	購ひし苗木に託す我が晩年	佐藤 澄世

### 短歌会

白梅の遅れて咲きしこの年は香りも高く色深く見ゆ  
ヒヨドリの群れ押し寄せて一反の収穫間近のキャベツ食われぬ  
春近き野川の水も照り澄みて波鮮やかに波紋を見する  
霜強き朝に枯れ葉を手に除く春待つ心に露の曇見つ  
パワフルな歌声響くステージに一曲目から圧倒される  
玉子焼三人に分けて弁当を作りし母を今に思へり  
枝垂れつつ黄に熟したる柚子の実は静かな庭にポトポトと落ち  
水仙の蕾が二つ庭隅に袴をつけて凜と立ちをり  
草の香のわづかに残る手洗ひの水を止めて鳥の声聞く

## すぎなみフェスタでの活動

阿蘇大津人権擁護委員協議会  
江藤 由紀子

すぎなみフェスタでの啓発活動は、人権擁護委員協議会の大きなイベントの一つです。当日は天候が悪く、参加者が少ないのではと心配でしたが、開会式が終わり、人権コーナーのテントに戻つてみると、すでにたくさんの子どもたちが椅子にかけて待つていたのです。

人権押し花・ぬりえ・作って遊ぼう・人権紙芝居と、どのコーナーも絶え間なく満席で、テントの外で待つてもうこのところあるほどでした。準備は大変でしたが、子どもたちが満足し、喜んでくれたのでやりがいがありました。

このように、地域の方々とふれあう中で活動は、人権についての理解を深め、身近に捉えるよい機会になっていきます。人の痛みが分かり、お互いを大切にできる社会をつくりを目指すことを目指してこれからも、工夫や改善を重ね、活動を続けていきたいと思っています。



▲マスコットキャラクター 人権まもるくん・あゆみちゃん



▲人権紙芝居に見入る子どもたち